

齋藤 孝 「齋藤孝の速読術」 ～「2000字感想文」 望月勇輝～**「驚いたこと：二割読書法」**

今回は、読書が億劫で、苦手な僕に、石川先生から紹介してもらった『齋藤孝の速読術』を読んで、印象に残ったことを書いていきたいと思います。

僕が本書を読んで、驚いたのは、「二割読書法」という読書法です。『「二割読書法」とは本の二割だけ読んで、内容を理解する方法のことです。本は、すべてのページに万遍なく重要なことが書いてあるわけではありません。私たちはそろそろ「本は最初から最後まで読むもの」という強迫観念から自由になるべきです。私たちが得たいのは本当にいいものだけですから、二割読んで理解できたら、残りの八割を読む余力を、ほかの4冊に振り分けて読むことができます。』（一部引用）これまで僕は、本は一文字一文字をしっかりと追って読んでいくものだと思っていましたが、（丁寧に読んでいく方法もあるとは思いますが）すべてを読まなくてもよいという読書法があるとは驚きました。著者・齋藤孝さんは、むしろ、速読術を習得すれば、精読よりも、内容を早くそして正確に読むことができるというのです。

実際、振り返ってみれば、僕は今まで、一冊の本を読むために何か月もかけて、一文字一文字しっかりと追って読んでいました。精読していくような読み方にもメリットはあると思いますが、僕がこのような読み方をした場合には、かえって時間がかかりすぎて、内容を忘れてしまうということがあります。その点、この「二割読書法」は、本の要旨を捉え、二割だけ読むことで、同時に多くの本を読むことができるという方法です。僕はこの方法はとても良いなと思いました。また、著者の齋藤さんは本書で、同時に何冊も読んでいく中で、何冊か読み終わることができたらそれで良いという心持ちで読書をするのも大切と言っています。読書という作業・行為を壮大に考えすぎ構えすぎていたのかなと感じました。いつも本を読むときになかなか最初の一ページを読み進めることができなくて、ずるずると読まないまま過ごすことが多くありました。というのも、キリがなくなったら読もうとか、読書という行為に対して、もちろんないがしろにしているというわけではありませんが、構えすぎたんだなと思いました。本書を通じて、読書に対する考え方が大きく変わったように思います。

また、『"a book"ではなく、"books"という考え方』という考え方が印象に残りました。『私たちは本を読むとき、その本一冊を単体で捉えますが、一冊の本の背景には著者に影響を与えた思想や考え方、本につらなる膨大な系譜のワールドが広がっています。そして誰と誰がつながっているのだという「系譜意識」を持って「速読・多読」していくと、著者の精神の流れや主張が理解しやすくなります。そもそも人類始まって以来、初の領域を一人で切り開いている著者は、ほとんどいません。本を書く人は、ものすごく本を読んでいる場合が多いので、そうしたたくさんの本の世界をバックグラウンドとして持って書いている、と考えていいでしょう。』（一部引用）僕は少し前に、村上春樹さんの「海辺のカフカ」という本を読み、感想文も掲載してもらったのですが、物事の捉え方が哲学的に表現されている部分があり、思想を知らないで理解しにくいような部分がありました。辞書を引き、漢字の読み単語の意味などを調べながら読み進め、少し苦勞した経験があったので、齋藤孝のこの考え方には、納得・共感しました。

また、僕が今回本書を読んで、一番心に響いた一節は、『私が本を素晴らしいと思うのは、著者が自分のためだけに時間をさいて、丁寧に解説してくれているからです。しかも本はそうした著名な人が最高の集中力をもって、言い間違えもなく、構成も整理されてまとまった状態で提示してくれているものです。』（一部引用）というところです。読書が苦手な僕に、とても深く刺さりました。考えてみれば、プロの方が膨大な時間と労力をかけて分かった研究であったり、思考法であったり、物語であったりを自分一人だけの世界で集中して、独占して読むことができ、しかも値段も数百円から数千円で読むことができるということは、贅沢なことなんだなと、本書が考えを改めてくれました。今回を通して、読書への考え方が大きく変わりました。

インターネットやチャットGPTなどをはじめとしたAIが発達し、さまざまな情報があふれていて、またさまざまな情報を収集・発信することができる現代社会を生きていくなかで、情報の正確性や信憑性が重要とされていると思います。僕は、普段、スマホを使っていて、どの情報が正しくて、間違っているかを見極めることは非常に難しいなと感じます。ニュースひとつとっても、異なる報道の内容やニュースへの捉え方など、様々な意見・情報が流れてくるので、情報の取捨選択が大切だなと感じます。そんな現代において、本は遠回りのようだけれど、一番確実な情報収集ではないかと感じました。インターネットは、その業界に通じていない人でも、コメントを書くことができたり、情報を発信することができます。もちろん、インターネットが発達したことによって日々様々な恩恵を受けていますが、逆に情報があふれすぎて、何を選んでいいのか分からなくなってしまう、行動しづらくなってしまうということがあります。その点、本は、その世界のプロの方が、正確な情報に基づいて、情報を提供してくれるので、情報があふれている現代こそ、読書するべきなのではないかと感じました。インターネットと本の強みをしっかりと理解し、両方の強みを生かせるように利用していくようにすることが大切なのではないかと感じました。今回学んだ「速読術」を使って、しっかりと知識を広げていきたいなと思いました。

「早速実行実践の効果が！」

読書会の課題図書となっている本があるのですが、これもなかなか読めていませんでした。そこで、今回学んだ速読術を実践してみたのですが、驚くことに一時間弱でほぼ一冊を読み終えることができました。今までの僕からすれば、ありえないほどの進歩です。この調子で残り二冊も読み終えたいなと思っている今日この頃です。◆